

# 愛国学園大学

平成 30 年度 再評価  
評価報告書

平成 31 年 3 月

公益財団法人 日本高等教育評価機構



## 愛国学園大学

### I 再評価結果

#### 【判定】

再評価の結果、愛国学園大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定する。

### II 総評

平成 28(2016)年度の認証評価において、基準項目 2-1「学生の受入れ」については、大学全体の収容定員充足率が 0.5 倍を大きく下回っていることから、適切な学生受入れ数の維持が行われているとはいえ、抜本的な改善が必要であり、基準項目を満たしていないとし、基準 2「学修と教授」を満たしていないとした。

しかしながら、この基準を満たしていないと判断した要因となる事項については 1 年以内に改善が可能と判断したので、再評価の結果を待って最終的に判定することとし、大学の総合的な判断を保留とした。

平成 30(2018)年度に基準 2 の基準項目 2-1 について、平成 28(2016)年度の認証評価時に指摘した改善項目の内容を中心に再評価を行った結果、大学は、指摘した内容を真摯に受止め、指摘事項については改善されたことが確認できた。今後も継続的に自己点検・評価を行い、質の保証と改善に努めることを期待する。

### III 基準ごとの評価

#### 基準 2. 学修と教授

#### 【評価結果】

基準 2 を満たしている。基準項目ごとの評価結果と理由については、以下に述べる。

#### 2-1 学生の受入れ

- 2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知
- 2-1-② 入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫
- 2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

#### 【評価結果】

基準項目 2-1 を満たしている。

#### 【理由】

入学者受入れ方針は、「大学案内」「学生募集要項」、ホームページ等に明確に示されており、多くの高等学校へ送付し周知されている。加えて、オープンキャンパスを積極的に活

## 愛国学園大学

用し、入試広報委員会の若手メンバーによる大学の概要等の説明を行い、周知を図っている。

入学者の受入れについては、志願者の出願利便性の向上を図るために多様な入試制度を実施しており、実施時期、実施方法について毎年、見直しを行っている。一般入試以外では、面接試験を課し、10数項目の面接視点から、複数の教員による個人面接により、入学者受入れ方針に沿った学生の受入れを図っている。

大学全体の収容定員充足率は、平成 28(2016)年度の認証評価時に 0.5 倍を大きく下回っていることが確認された。その後、平成 29(2017)年度及び平成 30(2018)年度の入学者は増加し、収容定員充足率は 0.5 倍を上回り、改善されることが確認できた。授業料減免制度や「修学奨励会」の設置などによる学生への経済的支援の充実、高等学校への出前授業などによる大学の情報を提供する努力、また「ホームページ等編集会議」によるホームページの改善等、学生受入れ数維持のためにさまざまな工夫を行っている。

